

今月の回答者

神奈川県技術士会環境マネジメントセンター

技術士 工学博士 齊藤 純氏

## 環境ISO認証取得の取り組み方の留意点について

**Q** ISO14001の取得を考えている中小企業の経営者ですが、規格の解釈など難しい所があり取り組み方の留意点について説明願えませんでしょうか。

**A** ISO14001の導入につきましては、はじめに取り組み場合人数の少ない中小企業の皆様の苦しい所も良くわかります。今までに認証取得に向けて種々の質疑応答が有りましたが、御質問の趣旨に沿って、本稿では認証取得の取り組み方初期の留意点について具体的に説明いたします。

### 1. 経営者の取り組み姿勢

まず経営者が明確な目的意識をもってリーダーシップをとることが肝要です。ISO規格の中でトップマネジメントの関与する条項が3つあります。第1は自ら環境方針を明示し、全従業員に対して方針の狙いを周知させ目的化するための道筋をつけることです。第2は環境方針の実現に向けて成果の上がるよう適切な経営資源の用意と権限委譲が求められております。第3は自らシステムの見直しを実施することです。

認証取得は会社の大きさ、レベルは問題にしていません。参考迄に下表に20人以下の企業の取得の一例を掲げます。

小規模企業の認証取得事例

会社名	人員	業種	取得年	所在地
①高山アルパック	16	半導体装置販売	12.10	長野
②三協物産	9	ゴム製品製造	12.04	東京
③北星鉄網	7	土木建築資材	11.10	長野
④合沢産業	17	空調機器シーす	11.01	東京

### 2. 環境マネジメントシステムの構築の留意点

環境ISOの規格は“何をなすべきか”を規定したもので“どのようにするのか”は企業に任されています。各社各様の適正解があることとなります。構築の際の留意点を箇条書きにして説明します。

#### 1) 現状把握の実施

大気汚染・水質汚濁等の公害発生源の特定、有害化学物質の取扱量、エネルギー・原材料の使用状況、環境影響の主要発生源設備機器リスト、廃棄物の管理状況、事業活動に関する環境規制等の事前調査はシステムの導入には必須事項です。

#### 2) 公表されている他社の参考事例

雑誌、単行本に掲載されている同じような業種の文書例を参考に自社流にアレンジして時間・労力を節約し本当に必要な部分に注力すべきです。

#### 3) 社内の既存システムの利用

危険物管理、廃棄物管理、緊急時対策、環境汚染対策、教育システム等を環境ISOに利用するよう考えます。例えば全体の教育計画の中に環境教育を取り入れるように致します。

#### 4) 現場作業員に対する配慮

現場作業員に理解を得るためにシステム構築の際に作業手順に関するアンケートを繰り返し行いましょう。その結果を各作業手順書の中身に反映させ現場での審査のヒヤリングに際し担当者が的確な対応が出来るような仕組みをつくります。

#### 5) コンサルタントの活用

コンサルタントのアドバイスを受けながらシステムを構築する方が効率的です。コンサルタントには大手のコンサルタント会社と個人経営があります。一般にコンサルタント会社は事務所経費、営業経費、教育費等の関係から委託費用が割高になる傾向にあり、個人経営ではコンサルタントの品質のバラツキが大きいという欠点があります。また規格に詳しくても依頼先の業種に関する専門知識が乏しかったりして企業のニーズの把握が不十分の場合もあります。

ISO14001の認証取得は決して難しいものではありませんが、中小企業ではすべて自力で行うのは大変です。神奈川県技術士会は経験豊富な各分野の専門家集団です。何時でも応援致します。